

第2回 まちづくりにおける駐車場政策のあり方検討会 議事要旨

1. 日時

令和7年2月26日(水) 午後2時から午後4時まで

2. 場所

中央合同庁舎3号館6階都市局局議室

3. 出席委員 (※はWEB参加。★は委員代理)

座長 岸井 隆幸	一般財団法人計量計画研究所 代表理事
大沢 昌玄	日本大学 理工学部 土木工学科 教授
小早川 悟	日本大学 理工学部 交通システム工学科 教授
小嶋 文※	埼玉大学 理工学研究科 環境科学・社会基盤部門 准教授

(駐車場関係団体)

荒井 昭雄	一般社団法人 全日本駐車協会 専務理事
岡部 達郎	公益社団法人 立体駐車場工業会 事務局長
亀村 幸泰※	一般社団法人 日本自走式駐車場工業会 専務理事
前川 琢也	一般社団法人 日本パーキングビジネス協会 理事長

(地方公共団体)

雨宮 尚広※★	東京都 都市整備局 交通企画課長代理 (交通戦略担当)
前田 美知太郎※★	千代田区環境まちづくり部 景観・都市計画課長
近藤 陽介※	金沢市 都市政策局 担当局長 (兼) 交通政策課長
津島 秀郎※	神戸市 都市局 都心再整備本部 局長
坂部 圭治※	和歌山市 都市建設局 都市計画部長

4. 議事

(1) 事務局説明

事務局より資料説明

(2) 意見交換

5. 主な発言など

①とりまとめ・ガイドライン（案）について

（内容全体について）

- これまで駐車場の把握に関しては届出の受理のように受け身だったものを、都市計画基礎調査や他の調査と一緒に、自発的に定期的に状況を確認することで大分変化する。また以前は駐車場不足という前提があり、下限型の附置を求めていたが、今や過剰という状況もあり、抑制や上限、規制という選択肢が駐車場施策としてもあり得るということが出てきている。さらにこれまでは総量による考え方であったが、物流もあれば観光もあればバスもあるというように、交通の質に応じた需給を確認し、総量だけでなく質を高める方向にしよう、という風に考え方を変えている。地域の交通体系と一体となりマネジメントを具体化していくための政策に転換していくということである。
- 国の体制としては、従来の国がリードしていくという立場よりは、地方自治体に対し自由度の高い交付金も用意されており、サポート側に回って、自治体で自由に考えてほしいという立場に変わってきている。駐車場政策を守りから攻めに変えるということはこういうことだということを、自治体に分かりやすく伝えられると良い。国交省だけでなく、駐車場事業者・交通管理者・道路管理者と一緒に積極的に取組み、駐車場施策は整備だけではないということがはっきりするとよい。
- 多目的利用促進や緑化、にぎわい創出について、本市でも取り組んでいきたい。まちなかの平面駐車場が少しずつ増えているのが課題となっている中で、とりまとめ案において、都市計画駐車場を附置義務駐車場に利用していくという事例や、公共交通利用促進措置として、従業員のマイカー通勤規制に対して附置義務台数を緩和しているなどの例があるが、取り入れていけるかと思う。街中の駐車場をどう抑制、集約化するかに興味がある。
- たくさんある駐車場をまちづくりの景観要素として捉えて良いものにしていくという事にも取り組むべきかと思う。そうした観点で、良い事例を表彰するという方法もあるのではないか。

（駐車場に係るマネジメントの計画的な推進について）

- 「駐車場のマネジメントに係る計画を作成していく」ということだが、ウォークアブルなまちづくりや立地適正化計画を展開していく中で、当然駐車場を考えていかないと課題は解決しないというのが実態かと思う。居心地の良い人のための空間を実現するためには駐車場が適切に配置されていないといけない。
- 駐車場整備計画の見直しは単独でやろうとすると億劫になってしまう。例えば都市計画基礎調査で駐車場の土地利用部分はそこから引用するなど、具体的な見直しの方向性を書いておいた方が自治体は取組やすいのではないか。定期的な見直しの必要性は理解されていると思うが、色々な調査とも連携できる手法を考えていただくと効率的

かと思う。

- 立地適正化計画やウォカブル・観光に関する計画を策定する際に駐車場についても併せて計画しなければ小規模な駐車場が取り残されてしまう等の課題を示し、他の計画が動いているときに駐車場についても計画しないとうまくいかない、ということを強く打ち出して、自治体に見てもらえるようにするとよい。
- 駐車場の地域ルールの中で歩行者を優先する路線（街路）を決めて、当該路線に面するビルを建てる場合は駐車場を隔地で確保したり、出入口を指定路線に作らないことを定めている例がある。是非そうした事例はこちらにも入れていただくとよい。
- マネジメントをする計画区域で道路の性格付けをしないと、ウォカブルな空間とそれを支える交通機能の整理が出来ない。駐車場を作る際はこの道路に面して作って欲しい、ここには作れない、ということは明示する必要がある。
どういう道路は何に使うのかということを地区レベルで考えていかないといけない。それが前提となって、駐車場の配置を考えることになる。地区内のルールとして駐車場出入口を作らないようにする、というのがあってもよい。
- 施策について費用は何処が出すのか、人の要因が大きくマンパワー不足の状況でどのように長く運営・維持管理していくのかが大きな課題
- 具体施策を考える上では、どのような支援を受けられるかについて一緒に考えていただけると良い。
- 自由度が高い補助制度等があるが、駐車場ではこんな風に使えるというのが示せるとよいかもしれない。

（駐車場の整備（量）の適正化について）

- 土地所有者が2～3年で土地を活用する手段がないところを、税金がかかるので少しでも収益化を図るために駐車場ができる。土地所有者も車の利用者が街の人たちも我々事業者も win-win でやっているのがコインパーキング事業が成り立っている。ウォカブルなまちづくりをしてコインパーキングの整備を減らすにあたっては、どこに代替するかは大事。駐車場の協会でも運営会社に対し調査への協力を促したり、綺麗で機能的なコインパーキングはどういうものかを研究し、デザインも含めて協力していくこともできるし、やるべきだと思っている。ウォカブルなまちづくりなど、事業者の立場からも協力して良い街づくりをしたい、という都市の目指すべき方向性が見えれば協力・賛成しやすい。
- コインパーキングと街づくりをどう連携するかについて、市の条例に基づいて地区の住民の方や商店街の方が中心となって、その地区にふさわしい建物や土地利用など、地区独自のまちづくりのルールを考え、「まちづくり計画」というものを作成し、市と地区で協定を締結している。その計画では、商店街は快適に安心して人に歩いてもらいたいので、駐車場を作る際には、事前に町会や商店街等その地区に相談が必要とし、出入

り口の場所を変えるなど、一定の基準を設けているものもある。

地域ごとに駐車場の事業者と地権者、商店街、町内会の方が話せる場を作れると良い。労力がかかるので、まずはそうした枠組みを作りやっていくことが、ウォークابلを実現する第一歩なのだろうと思った。事業者・地権者・行政・地域のみんなてどの様な街にしたいのかを話しあうのが第一歩。

○白川村の事例の中で「住民への説得による民間駐車場の抑制」とあるが、どのように説得したのか。他の地域で参考に出来るところがあれば、より詳しく書いていただけるとよいと思う。

○内部の話し合いだけでは難しいところもあり、外圧も必要かもしれない。

(周知等)

○来年度周知・広報について、とりまとめのどのポイントを自治体に押し出していくのか。どこを知ってもらいたいのかが整理されるとよい。

○「こういう視点で駐車場整備計画を見直していく必要がある」というポイントを示さないといけないのではないか。新しい視点での見直しが必要、という部分を押し出していないと自治体の人には響かないのではないか。

○とりまとめ骨子として簡単なものがあるとよい。ガイドラインをまとめてコンパクトにする際に、こういうテーマ・課題についてはこういう良い事例がある、というものが整理されているとわかりやすい。「駐車場マネジメントに係る計画を策定していくことが望ましい」「定期的に改定していくことが望ましい」という部分は一番伝えないといけない。

○新しく入った要素や、例えばウォークابلなまちづくりに関心がある場合に参照してほしい部分がわかると、まずはその部分を読んでみる、というようなきっかけになる。

○自治体にどう届くかを考えると、具体の施策がどこまでイメージできるかが重要。

②共同住宅のへ荷さばき駐車施設附置義務について

○こういうことをしてもらいたいと事前予告的なメッセージを示すなど、自治体が混乱しないように気を付ける必要がある。

○ガイドライン等では大規模な共同住宅ができる前に荷さばき駐車場の効率的な運用について協議することが重要であることを書いておいた方がよい。本来は大規模なタワーマンション等を作る前に協議して、効率的な運用の在り方を議論しておいた方がよい。

③引き続きの検討課題について

○駐車需給の把握について駐車場の考え方は千差万別であるということもあるが、フローチャートでこの方法がよい等示して、自治体の考える際の導きがあった方がよい。

- 需給バランスや、管理運営についても、マンパワー・予算がかかってしまうため、一定程度 AI 等を活用して、需給バランスを管理できるようなツールがあれば課題が解決するかもしれない。
- 附置義務の原単位をどう見直すかが重要。将来需要について、これから都心に流入する車を減らしていく方針の中で、将来的に減るということをどのように推計に反映したらよいか悩んでおり、今後も難しい課題であると考えている。将来的に減っていくことをどう位置付ければよいかということを含め、わかりやすいマニュアル等があるとよい。

以上